

## 「保育園サーベイランス」を市町村単位で導入した場合の活用例

### 石川県金沢市保健所の取り組みのご紹介

国立感染症研究所感染症情報センター 菅原 民枝 安井 良則 大日 康史

#### 1. はじめに

「保育園サーベイランスは、いったい何のためにしているのか」ということについて、自治体での取り組みを紹介しておりますが、今回は、保健所との連携がスムーズにしている事例を紹介します。

それぞれの保育所（園）が、日々の状況について入力（登録）することによって、情報はシステムによって共有され、新しい『地域の情報』として集約されています。こうした地域の情報は、保育所が役に立つだけではなく、地域の公衆衛生の中心である保健所にとって、大変に有益な情報になります。感染症は、二次感染、集団感染といったことを引き起こす可能性があるため、感染症対策には個人の問題だけではなく、地域社会での予防の取り組みが必要です。

保育所は、感染症もしくは食中毒が疑われる者等の人数、症状、対応状況等を、管轄部局（保育課）に報告するとともに、併せて保健所に報告して、指示を求めることになっています。具体的には、「同一の感染症若しくは食中毒の患者又はそれらが疑われる者が10名以上又は全利用者の半数以上発生した場合」です。いわゆる10名報告です。また、通常の発生動向を上回る感染症等の発生が疑われ、特に施設長が報告を必要と認めた場合です。こうした報告はなぜ必要でしょうか？それは、乳幼児が集団生活をする場では、感染症の発生時に迅速で適切な対応が求められるためです。そうした対応は、専門家と連携をすることで速やかに実施することができます。

ここで大事なポイントは、『発生時の迅速な』という点です。実際に、集団発生がおきれば、報告をしなければならぬと思っても、子どもたちの状態のことが気になり、うっかり後回しになってしまうこともあります。また、大規模な保育所においては、10人程度の発生はよくおこります。しかし、感染症発生時には、速やかな連携が必須です。感染症は、流行の兆しをとらえ、的確に対応すれば、大きな感染拡大を防ぐことができます。効果的な対応策をとるためには、適切な対応が必須です。

保育園サーベイランスでは、こうした連携がとりやすくなっています。1つは、「10名報告」をメールで自動的に保育課と保健所に送付しています。もちろん、電話報告も場合によっては必要ですが、メールで自動送付されるために、あとで報告しようとおもって忘れてしまったという事態は防ぐことができます。またメールの送付があることで、その後の連携がしやすくなるというメリットもあります。更に、それぞれの保育所ごとに解析をしているので、通常の発生動向を上回る発生についても、アラートを出し、その施設にマーカーが表示され保健所と保育課では参照しやすくなっています。

これまでは、こうしたシステムがなかったため、保育所からの報告をもって、感染症発生後の対策が開始されていましたが、報告が後回しになって、感染拡大を起こした後に、対策をするということがあったようです。そのときは、もっと迅速に情報を共有できていればという課題が残りました。しかしシステムを使っているところでは、こうした後回しになることがないので安心です。

今回は、金沢市保健所の取り組みを紹介します。サーベイランス導入にあたって、保健所と保育課の連携が非常にうまくいっています。

## 2. 石川県金沢市保健所の取り組み

金沢市では、平成 23 年 3 月から試行的に実施し、4 月に導入に至りました。4 月以降も、保育園関係者と連携をとりながら、研修会等を開催し、11 月現在、市内全保育所 111 施設で入力が行われるようになりました。

保健所では、平成 22 年 8 月に厚生労働省からの情報提供があった時点から、こども福祉課とサーベイランスの活用について検討をしてきました。平成 23 年 7 月、保健所では、地域における感染症対策を支援する新規事業として「感染症対策地域支援ネットワーク事業」を立ち上げました。本事業の 1 つとして、運営委員会を設置、メンバーは、市医師会医師 2 名、金沢大学附属病院医師 1 名・看護師 1 名、金沢市立病院医師 1 名・看護師 1 名、保健所（事務局）3 名で構成しています。委員会で、地域状況をリアルタイムで把握できる「保育園サーベイランス」の紹介を行いました。保育所での最新感染状況（情報）を共有し、早期把握することは、地域の診療に有用に役立つという意見がまとまり、地域で診療する医師への情報提供の検討を行いました。

情報提供の方法について、こども福祉課、市医師会と相談し、その結果、12 月下旬より、市医師会専用ネットワーク「ハートネット」で掲載することとなりました。掲載内容は、毎日の市内全保育所 111 施設の症状別・疾患別欠席者情報を、中学校区 24 カ所に市内を区域割りしたマップ（地図表記の地域状況）と簡単なコメントを添えたものであり、その情報は毎日、夕方に更新を行ないます。

インフルエンザに関して、12 月末に、市内西部の中学校区に色づきが始まり、その後、その周辺の中学校区に拡がりが見られ、1 月中頃には市内全体に拡がりが見られるようになりました。2 月初めには報告数がピークとなり、その後は減少するという状況でした。この動きは、市の感染症週報より 1 週間以上早く察知できるということがわかりました。

また、コメント欄には、市内で起こった施設等の感染性胃腸炎、集団風邪等の情報提供（掲載の了解を施設側にとり）を行いました。

平成 23 年度末の運営委員会であげられた「保育園サーベイランス」のハートネット掲載への意見について、良い点として

●コメントがあるのがよい。忙しい時はコメントを見ている。

●早い情報なので感染の立ち上がりを見るのにはよい。等、流行の兆しを早期に探知できることがあげられました。

改善点としては

▲地図が小さくてわかりにくい。

▲図上での地区がわかりにくい。等、地図情報の提供に改善点が求められました。

運営委員より、市内の感染症対策は高齢者施設抜きでは考えられないと意見が出たこと等より、平成 24 年度は、ネットワーク運営委員に高齢者施設からも参画を依頼し、医療・保健・福祉の地域での感染症対策のネットワークの構築を図っていくことを計画しています。その中で、保育園サーベイランスの情報を地域の感染症対策に有用なものとなるよう検討していきたいと考えています。

＜石川県金沢市保健所の活用のまとめ＞

- ①地図表記の地域状況をリアルタイムに市医師会へ情報提供をする。
- ②市医師会・保健所・保育関係者が情報を共有し、感染症対策の連携を図る。

（経緯）

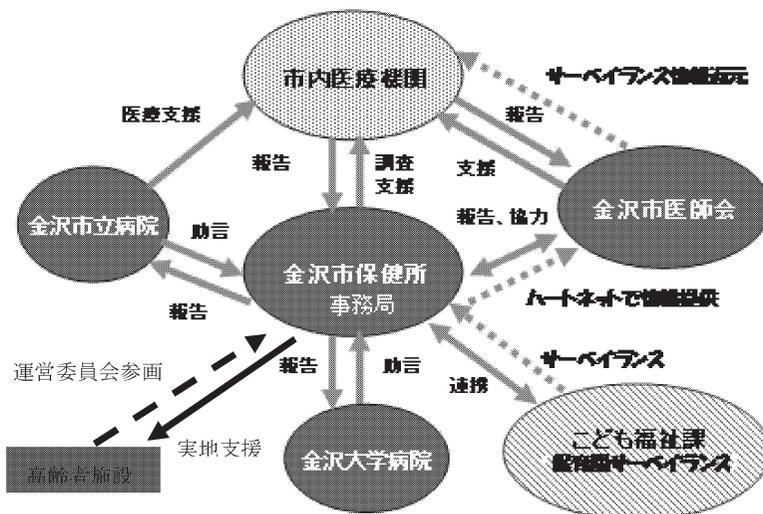
- 平成 23 年 4 月：保育園サーベイランスを導入（こども福祉課）
- 平成 23 年 7 月：感染症対策地域支援ネットワーク事業の開始（保健所）委員会設置：  
市医師会 2 名、金沢大学附属病院 2 名、金沢市立病院 2 名、保健所 3 名※保育園サーベイランスの情報提供を検討する
- 平成 23 年 11 月：市内全保育所でサーベイランスの入力を実施
- 平成 23 年 12 月：市医師会ハートネットで保育園サーベイランスの情報提供を開始  
※ハートネット：市医師会専用ネットワーク

（概要）

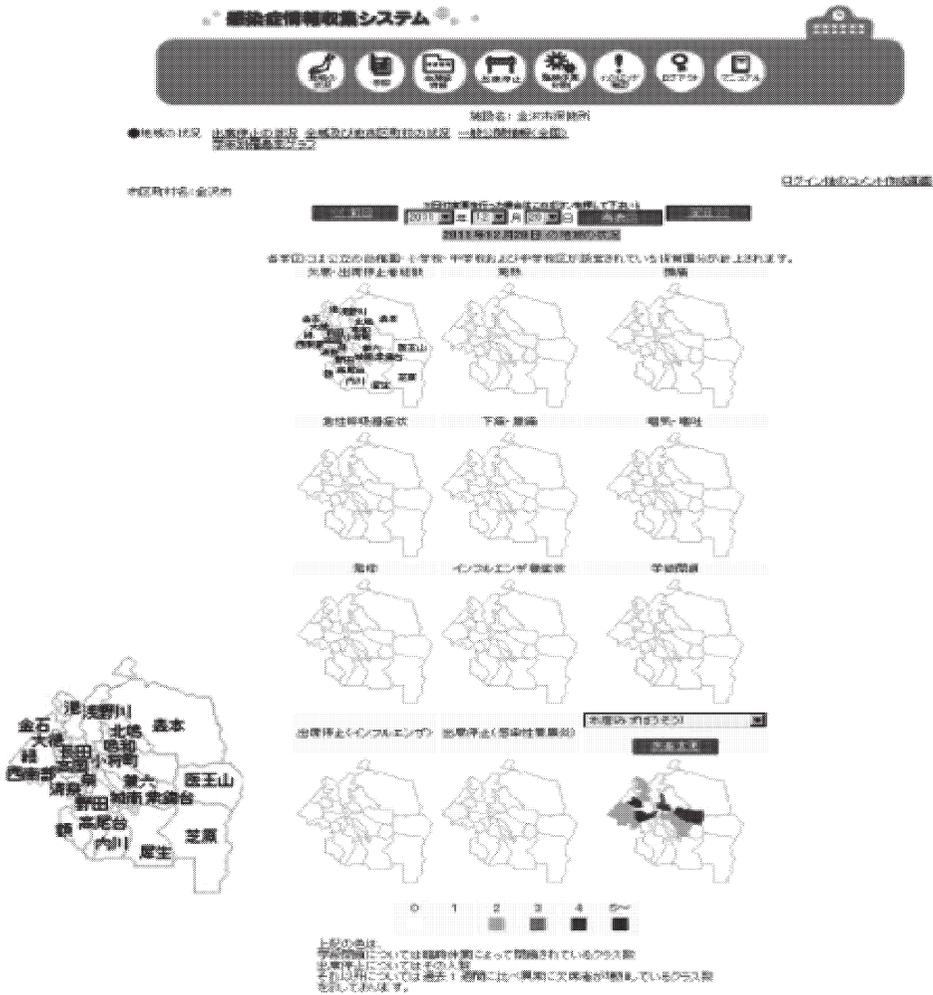
目的	保育所での発生、蔓延、流行が、地域の流行を反映する 保育所での最新感染状況(情報)を共有し、早期把握することは診療に有用
内容	毎日の、市内全保育所111施設の症状別・疾患別欠席者情報 ●中学校区別(全市24地域割)マップ
更新	毎日、夕方(土曜、日曜、祝祭日を除く)
対象	市医師会ハートネット加入者
方法	市医師会ハートネット 掲示板 で掲載

（感染症対策地域支援ネットワーク事業とは）

保健所内に専門家による窓口を設置し、感染症予防について日常的に相談できる体制を整備するとともに、地域における感染症対策を支援する。



(ハートネット掲載情報)



3. おわりに

保育園では、0歳児からのまだ免疫力も体力も弱い乳幼児が集団生活をしており、かつ接触が学校とは比較にならないほど濃厚であるため感染症が流行しやすい環境にあります。そこで、発症者の情報を嘱託医、保健所、市町村・都道府県管轄部署と共有し、早期に対策を実施することは、健康危機管理の上でも大切です。中でも、保健所との連携は特に重要です。

今後、金沢市では市内の感染症対策として、高齢者施設での保育園サーベイランス同様のシステムの運用も検討されています。保育園サーベイランスが開始されて、医療・保健・福祉にまたがる感染症対策のネットワークの構築の計画に発展しています。このような地域全体での取り組みは、子どものみならず、特にハイリスクの方々も含めた地域の住民を感染症から守る術になってきております。